



竹中工務店は神戸市の「大阪避雷針工業神戸営業所」の改修で、初のサーキュラー建築に挑戦しました。建て替えではなく既存躯体を活用し、廃棄物を約 8 割、CO<sub>2</sub>排出量を約 7 割削減。経年変化を活かしたデザインや再利用素材の採用により、建物の「時がつくる価値」を重視しました。補修しやすい構造や地域の職人との協働も取り入れ、建物への愛着を促進。長寿命化とサステナビリティを両立する新たな建築手法を提案しています。

【7/14・日経 XT】ニュース解説 半導体チップに電源まで集積 電力逼迫の AI サーバー効率化、Google 解説「APEC 2025」専門家解説（下） 大村一郎 九州工業大学

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/10848/>

AI サーバーの電力需要増加を背景に、パワー半導体の最新技術が注目されています。APEC 2025 では、電源をチップに内蔵する「オンチップ電源」や、AI 半導体裏面から電力を供給する「垂直電力供給（VPD）」が紹介され、電源の小型・高出力化と効率化が進展しています。加えて、チップ埋め込み型 VRM や、再エネ電力を効率的に変換する半導体変圧器（SST）も脚光を浴び、AI データセンターの電力逼迫解消に寄与する技術として期待が高まっています。

[目次へ](#)

## □ 7/15（火）

【7/15・日経 XT】世界最大の樹脂展示会 K2025 第 1 回 樹脂展 K2025 が発信するキーワード 3 つ、循環経済・デジタル・社会的責任 プラスチックの欧州トレンド（1） 小松 勝男 小松技術士事務所 副所長

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03266/070900001/>

世界最大のプラスチック展示会「K2025」は、「Green（循環経済）」「Smart（デジタル）」「Responsible（社会的責任）」の 3 つを主要テーマに掲げ、プラスチック産業の持続可能な未来を示します。欧州が主導するこれらのキーワードは、リサイクル技術や若手人材育成、環境配慮型製品への関心を高める狙いがあります。2025 年 10 月開催の本展示会には、3200 社以上が出展予定で、業界の最新動向や課題解決のヒントが集結する注目の場となります。

【7/15・日経 XT】サーキュラー建築に挑む 第 5 回 大林組技術研究所 鉄工作業所（東京都清瀬市） 大林組が試みる構造材のリユース、CO<sub>2</sub> 排出量を新築時の半分に 松浦 隆幸 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03262/070200005/>

大林組は東京都清瀬市で、鉄骨やコンクリート基礎などの構造材をそのまま再利用する「サーキュラー建築」に挑戦しています。1993 年築の建物を解体し、鉄骨の約 9 割、コンクリートの大半を新たな鉄工作業所にリユースすることで、CO<sub>2</sub>排出量を新築比で約 49%削減しました。部材を傷めず丁寧に取り出し、現行基準を満たす設計を行うなど、多くの工夫が求められました。今後の普及にはコストや制度面の課題も残りますが、貴重な実証事例となっています。

【7/15・日経 XT】世界最大の樹脂展示会 K2025 第 1 回 樹脂展 K2025 が発信するキーワード 3 つ、循環経済・デジタル・社会的責任 プラスチックの欧州トレンド（1） 小松 勝男 小松技術士事務所 副所長

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03266/070900001/>

世界最大級の樹脂展示会「K2025」は、2025 年 10 月にドイツで開催され、「Green（循環経済）」「Smart（デジタル）」「Responsible（社会的責任）」の 3 つのキーワードを掲げています。これらは、プラスチックの再利用やリサイクル、デジタル技術による効率化、環境や人材育成への責任を意味します。K は世界の樹脂産業の潮流を示す場であり、3200 社以上が出展予定です。これらのキーワードは今後の欧州プラスチック業界の方向性を象徴するものです。

[目次へ](#)

## □ 7/16（水）

【7/16・日経 XT】世界最大の樹脂展示会 K2025 第 2 回 欧州先進企業で加速する樹脂再生、K2025 が押す循環型経済 プラスチックの欧州トレンド (2) 小松 勝男 小松技術士事務所 副所長

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03266/070900002/>

世界最大の樹脂展示会「K2025」では、欧州の先進企業によるプラスチックのリサイクルや再生材の活用が加速しています。BASF は再生ナイロン「loopamid」や廃タイヤ由来素材「Cycled」で循環型素材の展開を強化し、Covestro はポリカーボネートの再利用を推進。Rohm は再生 PMMA の高度利用と独自の解重合技術を紹介し、DOMO は PA の溶解リサイクルによる水平リサイクルを実現しました。各社とも循環型経済の実装に本腰を入れています。

【7/16・日経 XT】サーキュラー建築に挑む 第 6 回 NEXT21 (大阪市) 大阪ガスの実験住宅でサーキュラー改修の新技术、壁や床を「切り取って」再利用 中東 壮史 日経クロステック/日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03262/070200006/>

大阪ガスの実験集合住宅「NEXT21」にて、設計者・川島範久氏が壁や床を下地ごと切り取り再利用する新たなサーキュラー改修手法に挑戦しています。解体部材をデジタル管理し、地下に保管して他住戸の改修に活用。日本古来の“もったいない精神”を現代に生かし、廃棄物と新規資材の削減を図ります。実験住戸 504 号室で 2026 年 2 月の完成を目指し、持続可能な住環境の実現と効果検証を行う先進的な取り組みです。

[目次へ](#)

#### □ 7/17 (木)

該当記事なし

[目次へ](#)

#### □ 7/18 (金)

【7/18・日経 XT】世界最大の樹脂展示会 K2025 第 4 回 CO2 削減とインフラ支える耐久性、K2025 が示す樹脂業界の社会的責任 プラスチックの欧州トレンド (4) 小松 勝男 小松技術士事務所 副所長

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03266/071000004/>

世界最大の樹脂展示会「K2025」のプレビューでは、プラスチック業界の社会的責任に焦点が当てられました。BASF は、CO<sub>2</sub>排出量を可視化するデジタルツール「PACIFIC」を発表し、サーキュラーエコミー対応と法規制への備えを推進しています。Wacker Chemie は、再生可能エネルギーや EV 向けに高耐久の絶縁材料を提案。両社とも脱炭素社会実現とインフラ支援に向けた素材開発で重要な役割を果たしています。

【7/18・日経 XT】ニュース解説：建築・住宅 ペロブスカイト太陽電池を導入した積水化学工業の大阪本社ビル、大規模改修工事が完了 山崎 颯汰 日経クロステック/日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00154/02485/>

積水化学工業と関電不動産開発が共同で行った大阪本社「堂島関電ビル」の大規模改修工事が 2025 年 6 月に完了しました。国内オフィスビル初導入となる薄く曲げやすいフィルム型ペロブスカイト太陽電池を 12 階外壁に設置し、発電電力をコワーキングスペースや非常用電力に活用しています。改修では断熱性能向上や環境負荷軽減も図り、CASBEE の「スマートウェルネスオフィス」最高評価を取得。今後は耐久性向上と事業化に向けた検証も進めていきます。

[目次へ](#)

#### □ 7/19 (土)

該当記事なし

[目次へ](#)

